

三菱ケミカルグループ株式会社 会社説明会(証券コード:4188)

三菱ケミカルグループ株式会社
執行役エグゼクティブバイスプレジデント 最高財務責任者
中平 優子

Hello!



株式会社三菱ケミカルホールディングスは、
三菱ケミカルグループ株式会社に社名変更しました。

本日の内容

1. 三菱ケミカルグループについて
2. 新経営方針
3. 株主還元

本日の内容

1. 三菱ケミカルグループについて
2. 新経営方針
3. 株主還元

会社概要

商号 三菱ケミカルグループ株式会社

代表者 代表執行役社長 Jean-Marc Gilson

資本金 500億円

従業員数 69,784名（連結）

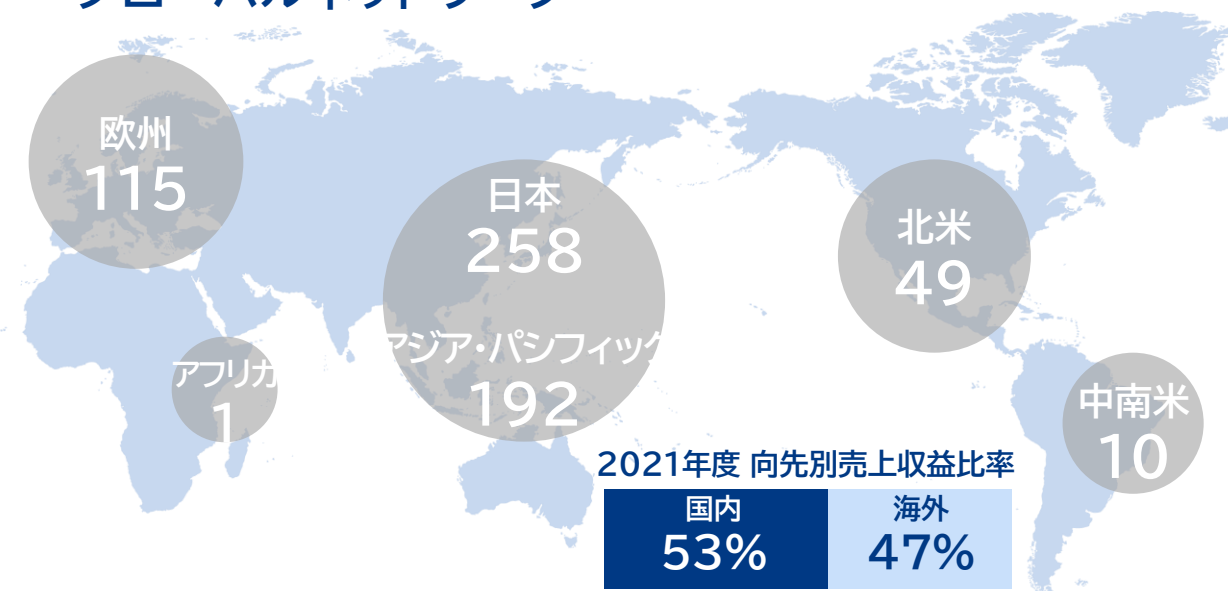
関係会社数 625社

決算期 3月31日

※ 2022年3月31日現在



グローバルネットワーク



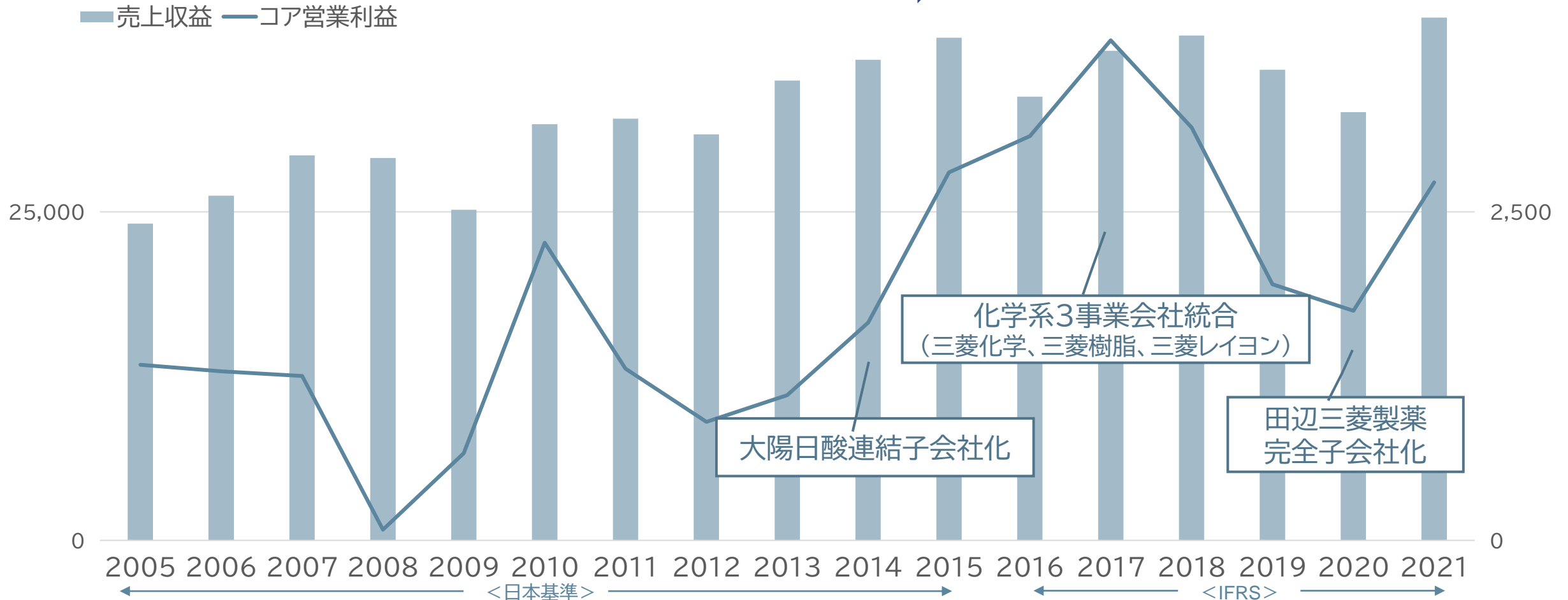
業績推移

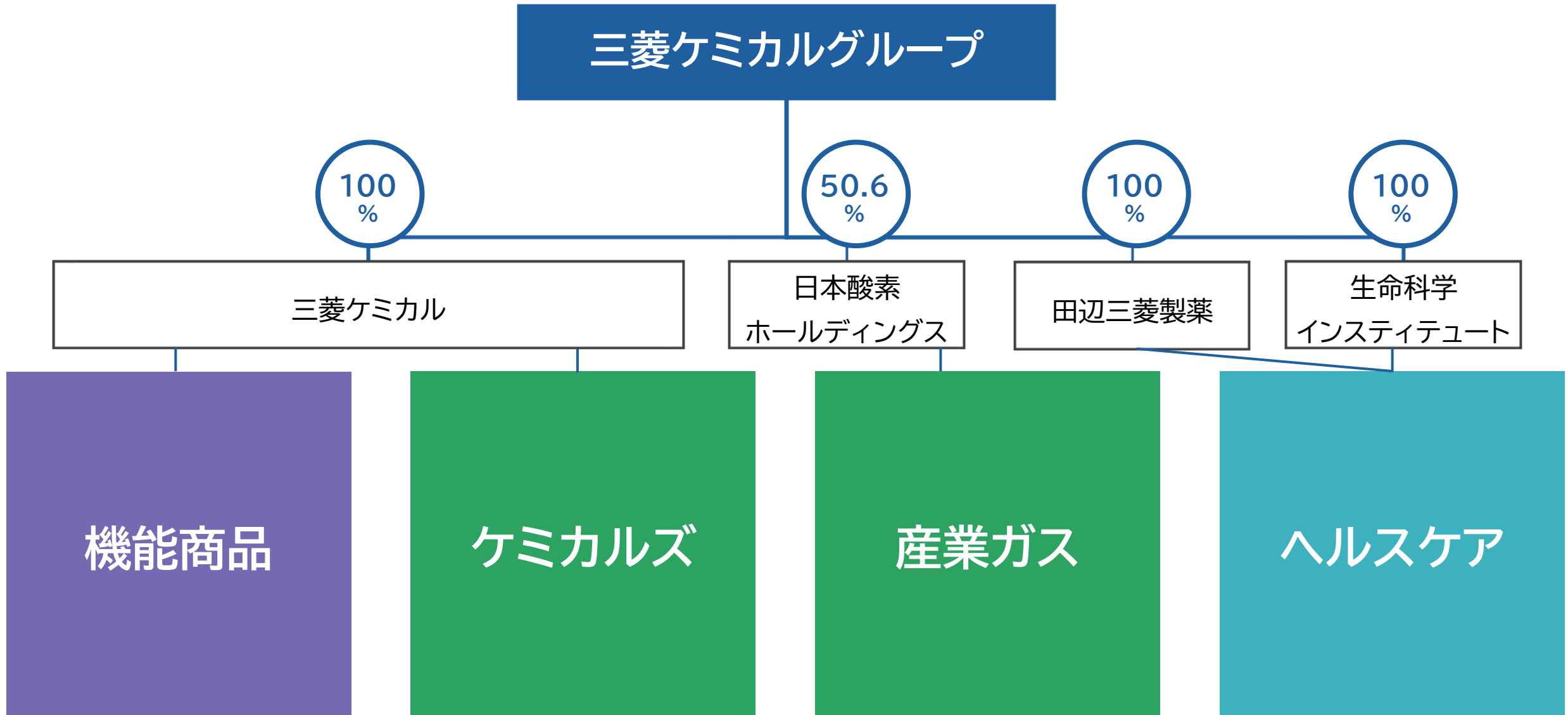
(売上収益:億円)
50,000

(コア営業利益:億円)
5,000

M&A・統合により企業規模を追求、不採算事業の構造改革を推進し、高成長・高収益型の企業グループへ成長

⇒ 企業価値最大化に向けた「選択と集中」へ





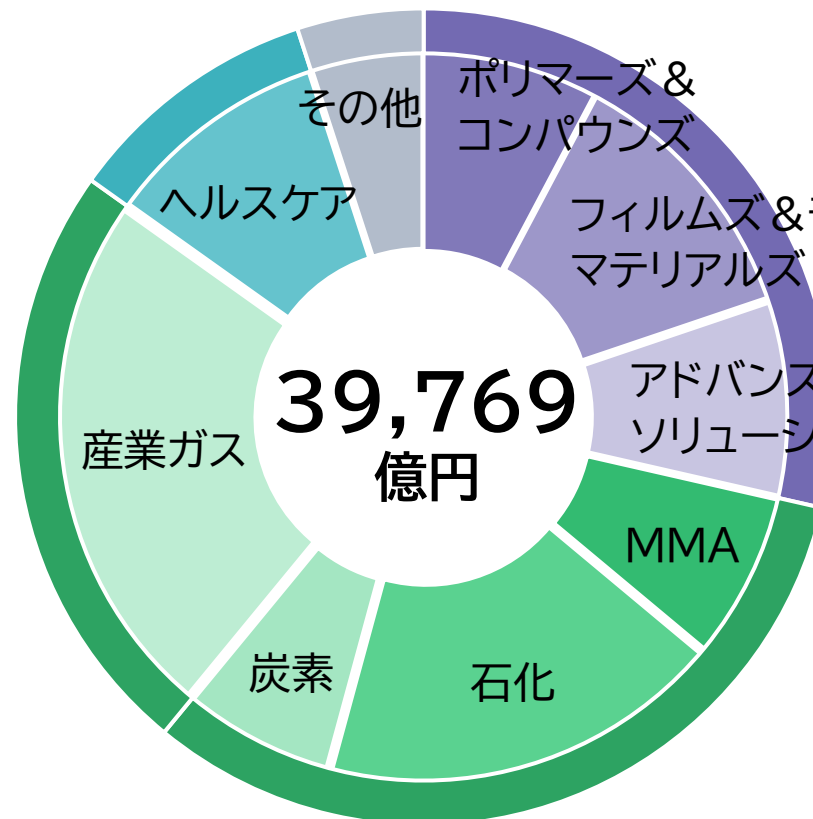
売上収益の事業構成比

2022年3月期

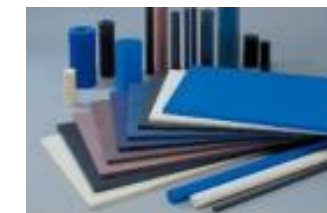
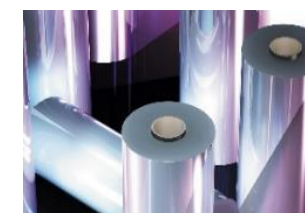
ヘルスケア



産業ガス



機能商品



ポリマーズ & コンパウンズ

ポリマーズ

機能性樹脂、サステナブルポリマーズ(生分解性樹脂・バイオエンプラ・ポリカーボネート・PBT・エポキシ樹脂)、アセチルポリマーズ (EVOH・PVOH)

機能性樹脂 熱可塑性エラストマー・機能性ポリオレフィン等

柔軟性と豊富なラインナップで自動車用途を中心に幅広い分野で展開、エアバックカバー用途で世界シェア40～50%



EVOH エチレン・ビニルアルコール共重合樹脂

高いガスバリア性能を有し、食品包装用途を中心に世界シェア40%以上



コーティング・アディティブス

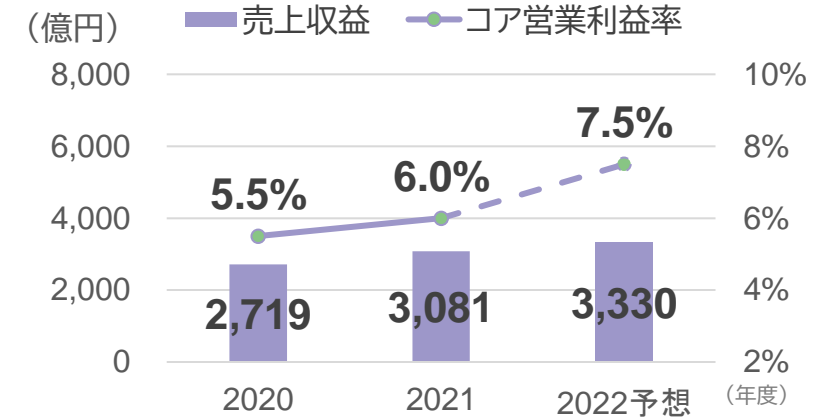
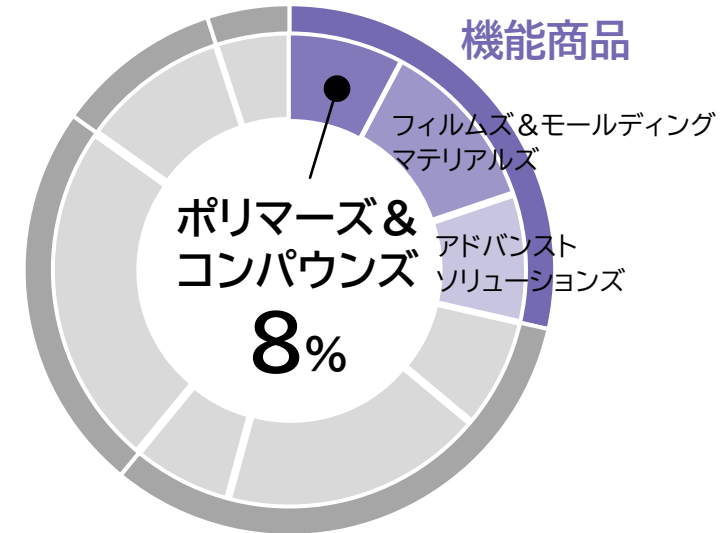
コーティング材料、機能性添加剤、ファインケミカルズ

コーティング材料 塗料・インク・粘接着剤等

高度な合成、配合などの高い技術力から自動車用途を中心に様々な分野に付加価値を提供



2021年度 売上収益



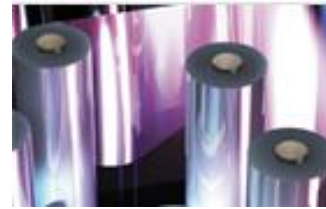
フィルムズ & モールディングマテリアルズ

フィルムズ

パッケージング(食品包装材)、工業フィルム(産業・メディカルフィルム・OPLフィルム等)、ポリエステルフィルム

ポリエステルフィルム

工業、光学用途としてグローバルに展開
偏光板の離型・保護フィルム用途で世界トップシェア



食品包装材(共押出多層フィルム等)

バリア性、易開封性など様々な機能を付加した製品を食品市場へ提供

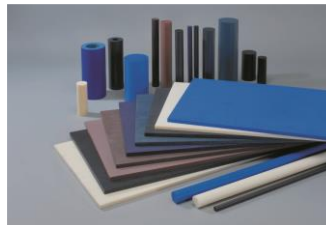


モールディングマテリアルズ

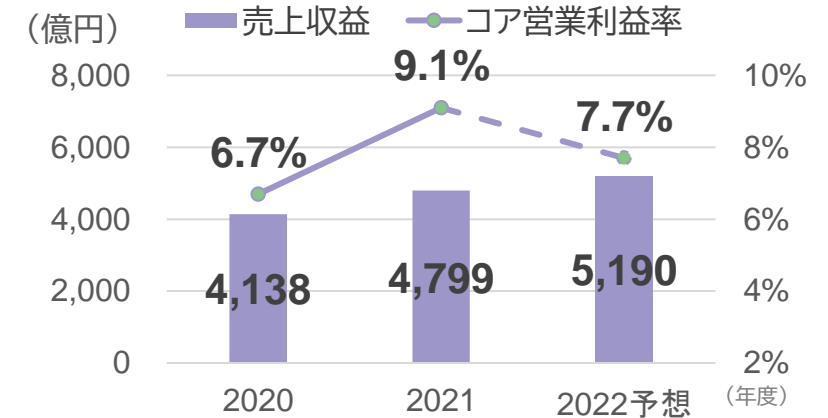
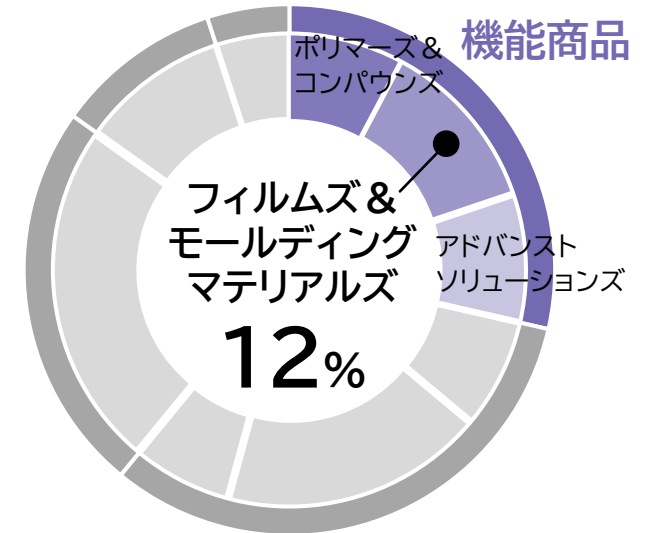
高機能エンジニアリングプラスチック、炭素繊維・複合材料、繊維、機能成形複合材料

高機能エンジニアリングプラスチック

エンジニアリングプラスチック素材のグローバルリーダーとして、産業機械、自動車、医療、半導体など幅広い分野で展開



2021年度 売上収益



アドバンストソリューションズ

アメニティライフ

アクアソリューション、ライフソリューション(食品機能材等)、建材関連

食品機能材(乳化剤・ビタミンE等)

おいしさ与健康の実現を目指して事業を展開
乳化剤のシュガーエステルは世界トップシェア

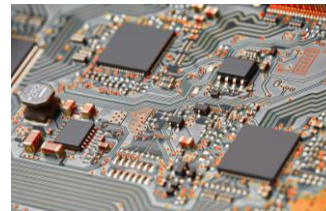


インフォメーション・エレクトロニクス

半導体、エレクトロニクス(ディスプレイ材料、光学用透明粘着シート等)、電池材料

半導体関連材料(EL薬品・精密洗浄)

半導体製造工程(前工程)で使用される高純度薬品や半導体製造装置部品洗浄サービスを幅広い地域で展開

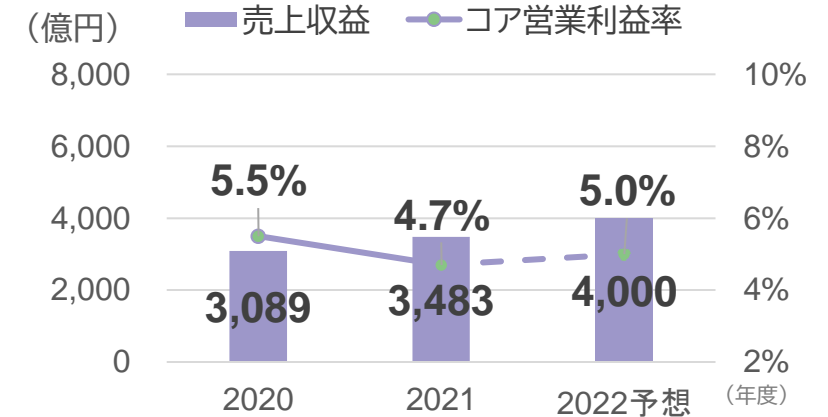
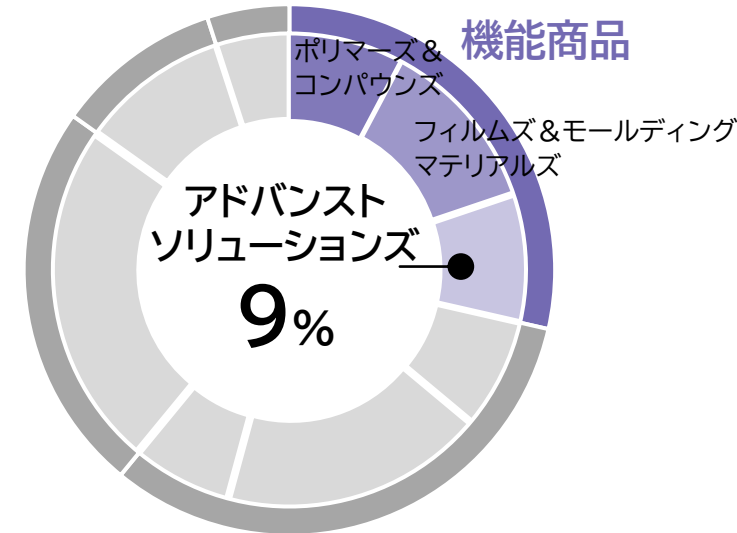


電池材料(電解液・負極材)

電気自動車に搭載される電池の高出力・高耐力実現に欠かせない製品をグローバルに展開



2021年度 売上収益



MMA

MMA

MMA、PMMA

幅広い用途展開

自動車のランプカバー、店舗の看板標識、照明器具、液晶導光板、水族館の水槽、接着剤、塗料など



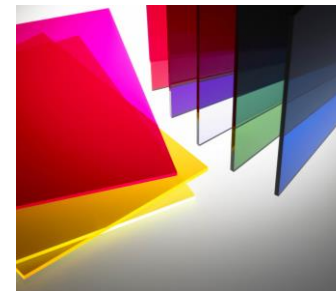
世界シェア約30%のNo.1サプライヤー

世界で唯一3製法を保有し、高い競争優位性

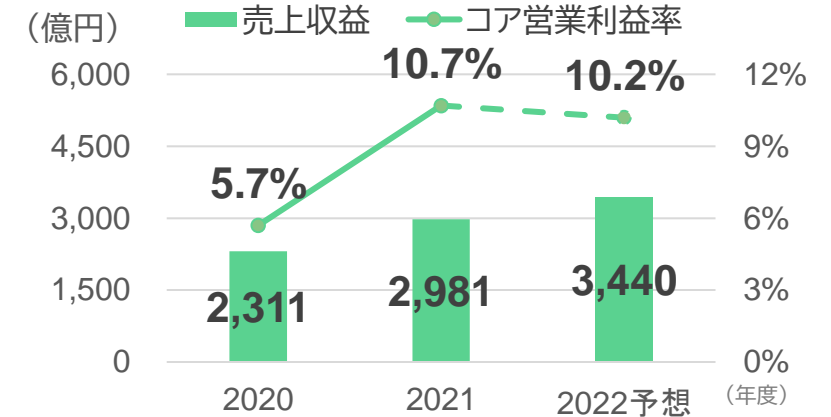
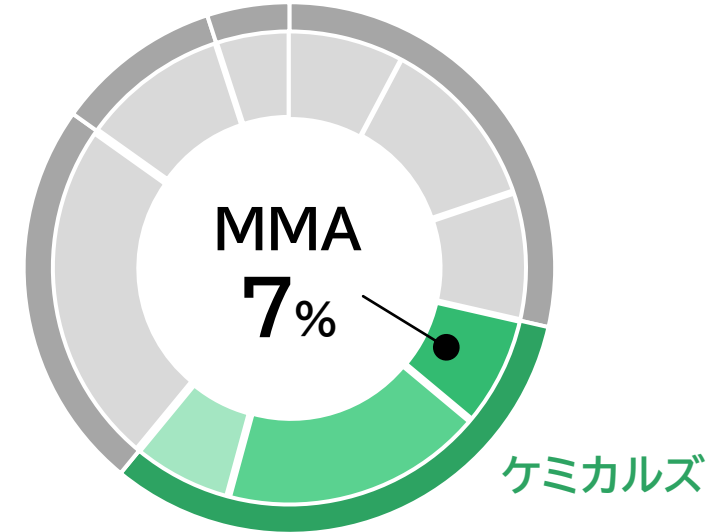


世界供給ネットワークの構築

2018年 サウジアラビアで世界最大規模の工場を稼働
2026年 米国で新工場の稼働を計画



2021年度 売上収益



石化

石化

石化原料、基礎化学品、ポリオレフィン

石化原料、基礎化学品

茨城と岡山※にエチレンプラントを保有

クラッカーから誘導品までのプロダクトチェーンを構築する中で技術を蓄積

※ 岡山のエチレンプラントは旭化成(株)・三菱ケミカル折半出資の三菱ケミカル旭化成エチレンが保有



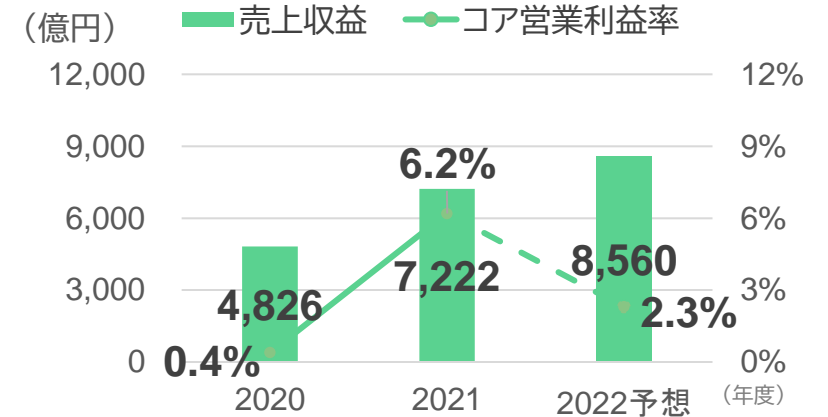
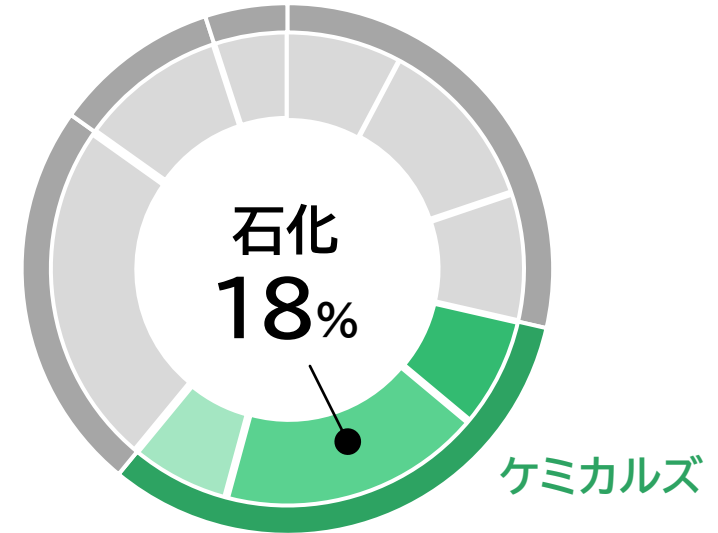
ポリオレフィン

自動車、エレクトロニクス、生活用品、産業資材、医療などの様々な分野で
高品質・高機能な製品を提供



(ポリエチレン製自動車燃料タンク)

2021年度 売上収益



炭素

炭素

コークス、炭素材、カーボンブラック、合成ゴム

コークス、炭素材、カーボンブラック、合成ゴム

優れた原料炭配合技術と品質管理技術を基に、鉄鋼業の主原料コークスを始めとした高品質な製品を安定供給

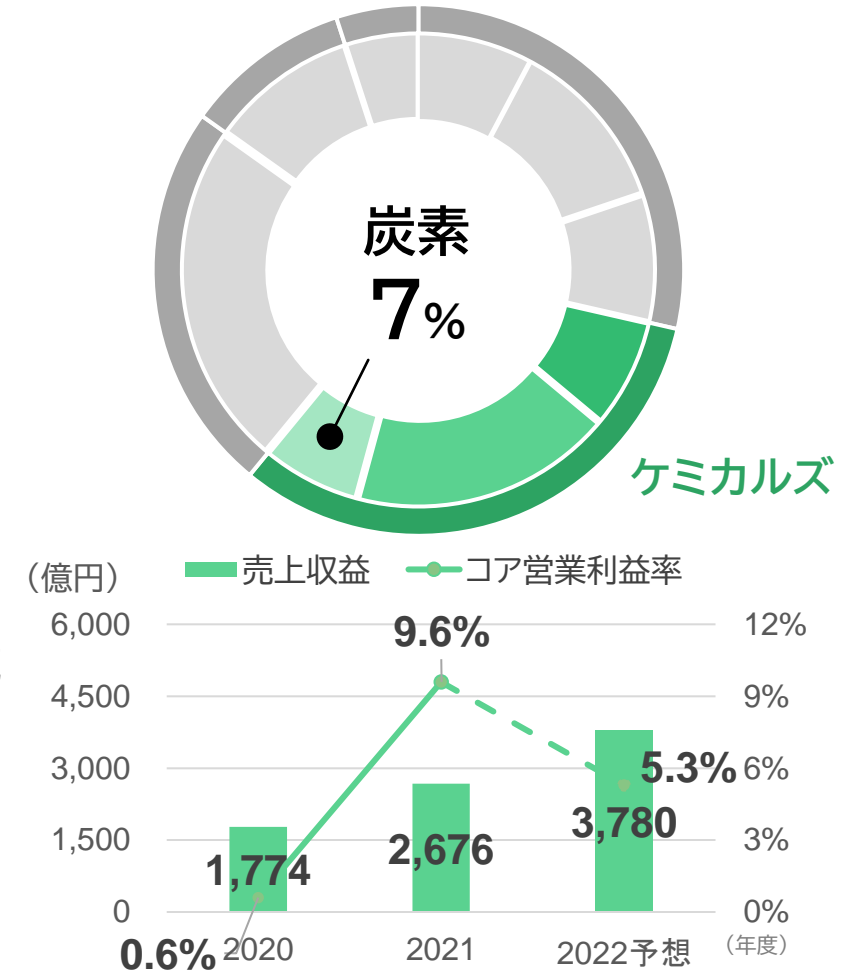


ビジネスモデル変革

国内鉄鋼業界の構造変化に対応し、最適な販売ポートフォリオ構築に向けた構造改革を継続



2021年度 売上収益



産業ガス

産業ガス

産業ガス、プラント・ガス関連機器

産業ガス

酸素、窒素、アルゴンを中心とする産業ガス市場においてグローバルシェア4位、国内シェア1位

北米、欧州、アジア・オセアニアを主要市場として海外の事業エリアを拡大

半導体、液晶などの製造プロセスで使用される電子材料ガスを提供



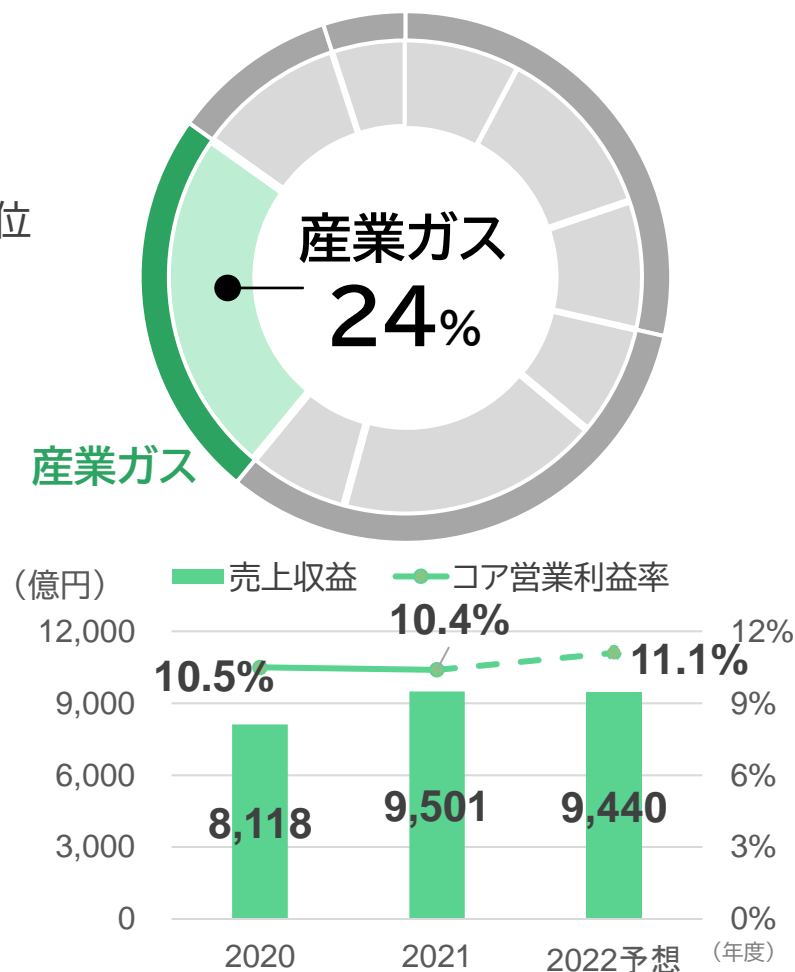
プラント・ガス関連機器

空気分離装置を初めて国産化

世界トップレベルのプラントメーカーとしての高い信頼を獲得



2021年度 売上収益



ヘルスケア

ファーマ

中枢神経、免疫炎症、ワクチン、糖尿病・腎

中枢神経

筋萎縮性側索硬化症(ALS)治療薬「ラジカヴァ」を発売(2017年8月)、米国で約20年ぶりの新薬。2022年6月には経口剤を米国で上市



免疫炎症

関節リウマチやクローン病、潰瘍性大腸炎などを適応症とするバイオ3剤「レミケード」「シンポニー」「ステラーラ」でシェアNo.1



ワクチン

2022年2月に世界初となる植物由来の新型コロナウイルスワクチン「コビフェンツ」について、カナダにおける承認取得



糖尿病・腎

自社創製の2型糖尿病治療剤「テネリア」「カナグル」「カナリア」、腎性貧血治療剤「バフセオ」等、更なるプレゼンスの拡大

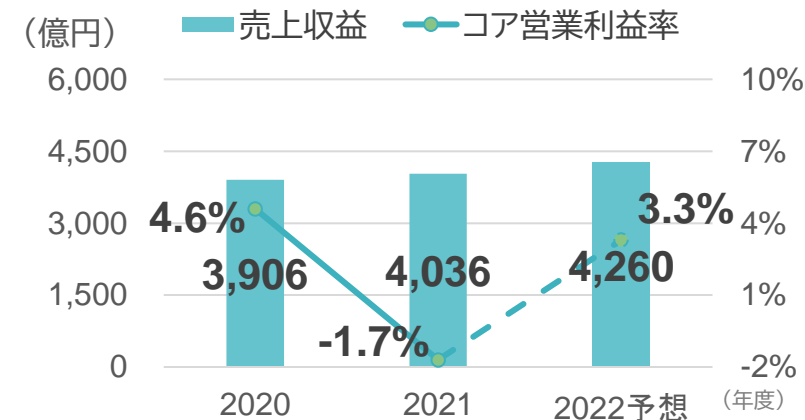
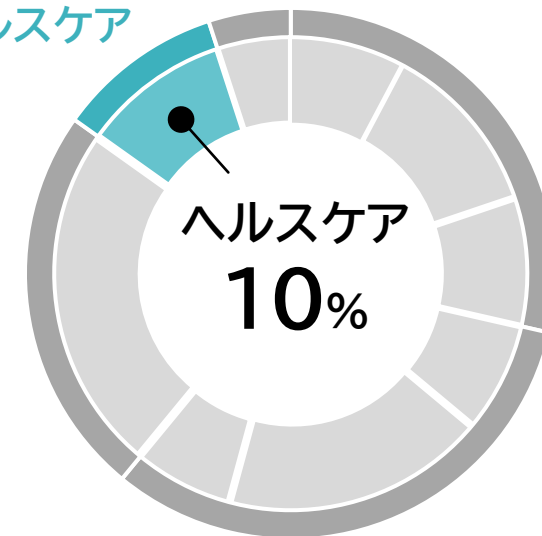


再生医療

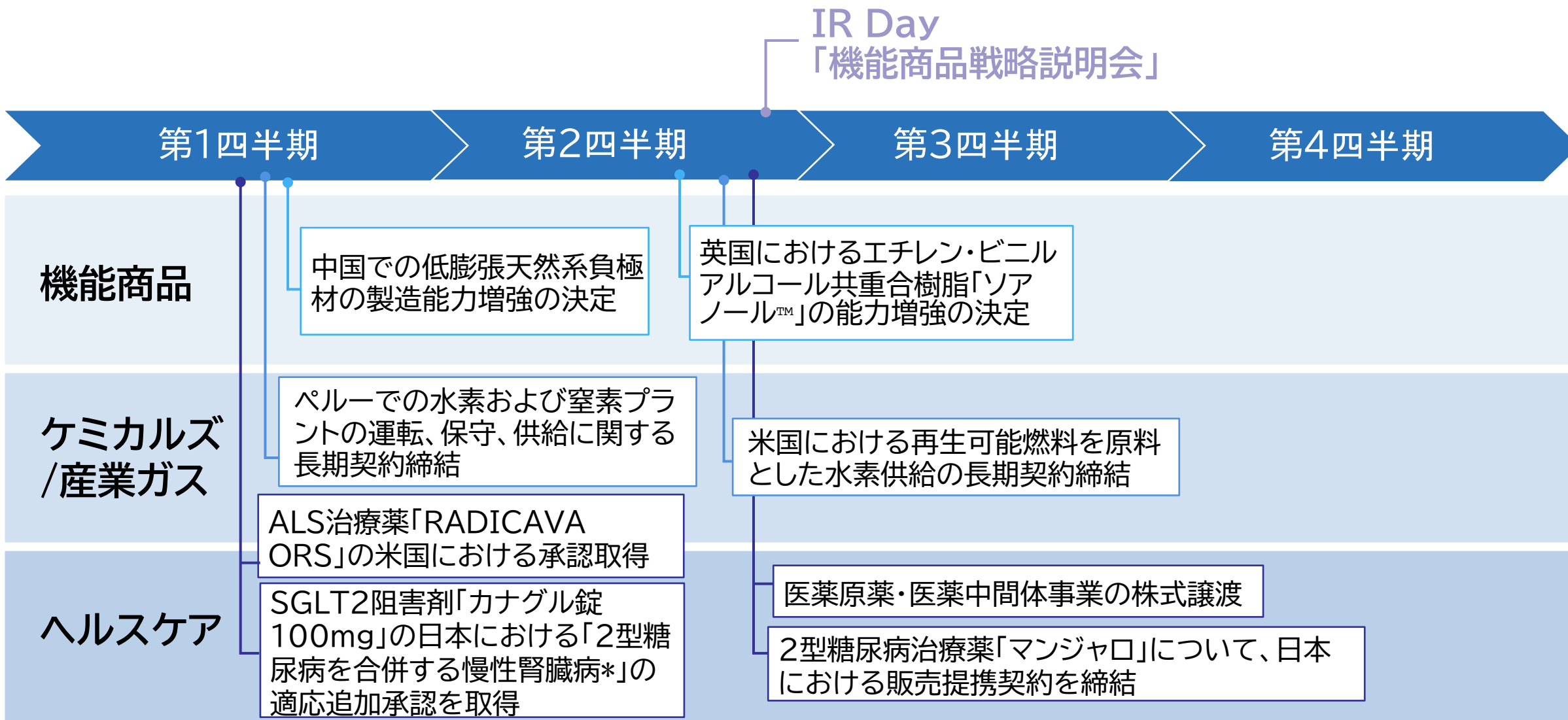
Muse細胞製品の研究開発

2021年度 売上収益

ヘルスケア



2022年度のトピックスと主な事業活動



*2型糖尿病を合併する慢性腎臓病
ただし、末期腎不全又は透析施行中の患者を除く。

2022年度第1四半期決算・業績予想

(単位:億円)

	2022年度1Q実績	2021年度1Q実績	増減	5/13発表 上期予想
売上収益	11,065	9,283	1,782	21,620
コア営業利益	721	887	△166	1,250
親会社の所有者に 帰属する当期利益	449	499	△50	615

- 2022年度1Q実績のコア営業利益は前年同期比19%減益、上期業績予想に対する進捗率は58%**
 - 原燃料価格の高騰、サプライチェーンの混乱等の事業環境下、価格転嫁活動やコスト削減を推し進めるなか円安も寄与し、売上収益は過去最高を計上。
- 2022年度業績は、期初予想を据え置き**
 - 原燃料価格の高止まりに加え欧米を中心とした景気減速の流れなど、事業環境の見通しが引き続き不透明なことから期初予想並みを見込む。
 - 第2四半期以降も価格転嫁や地域需要に応じたオペレーションの適正化、コスト削減を着実に実行する。

本日の内容

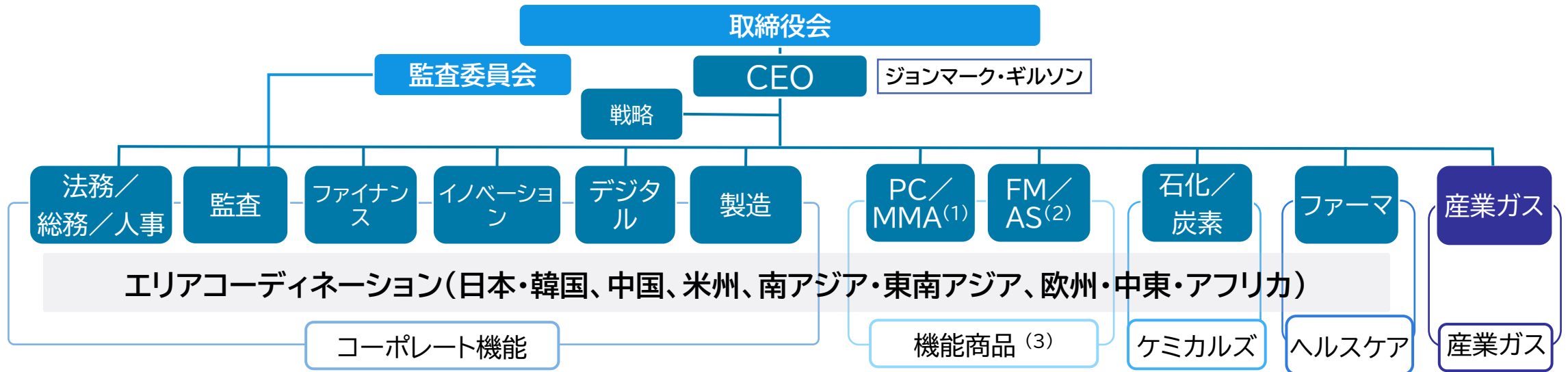
1. 三菱ケミカルグループについて
- 2. 新経営方針**
3. 株主還元

新組織体制の戦略的意義

“One Company, One Team”
カルチャーを持つフラットな組織

責任の所在の明確化
(リーガル・エンティティベースから
BU及びファンクションベースへ)

2022年4月1日以降の組織体制



注: (1) ポリマーズ&コンパウンズ/MMA

(2) フィルムズ&モールドディングマテリアルズ/アドバンスドソリューションズ

(3) 機能商品は3部門とすることも検討する

ロードマップ

FY2021～FY2025 新経営方針「Forging the future 未来を拓く」

効率性を追求した事業運営と事業の成長力を引き出す明確な戦略の下、全てのステークホルダーにとっての価値の最大化を目指す

FY2021 - FY2023

FY2024 - FY2025

Phase 1: 簡素化と合理化

- 洗練されたポートフォリオ
- コスト構造改善
- 組織体制のスリム化
- 有利子負債の削減
- 株主還元強化

Phase 2: 成長に向けた基盤の構築

- 石化・炭素事業及びノンコア機能商品事業のカーブアウトに向けた施策の遂行
- 成長領域への投資加速
- 日本酸素ホールディングス及び田辺三菱製薬の一層の価値向上施策

Phase 3: 成長の加速

- 機動的なキャピタルアロケーション
- 2025年以降の成長を視野に入れたM&Aを模索

2025年度に向けた財務目標

収益性と財務健全性の改善を通じて、業績成長を加速するための基盤を構築

主要財務指標(2021年度実績)

12.6%
EBITDA マージン

6.8%
コア営業利益率

¥125
EPS(非経常要因除く)

4.9%
ROIC

1.40x
Net Debt / Equity



主要財務指標(2025年度目標)

18~20%
EBITDA マージン

11~13%
コア営業利益率

¥125~145
EPS(非経常要因除く)

>7%
ROIC

0.5~1.0x
Net Debt / Equity

注力事業の選別基準

当社グループが競争優位性を有する成長市場にフォーカスしたポートフォリオ運営を推進

市場の魅力度

市場成長性

高収益性を阻む要因・リスク

ROS / ROIC
/ EBITDA マージン

グループの強み

No.1 / No.2 を狙える地位

技術革新性

競争優位性・差別化要因

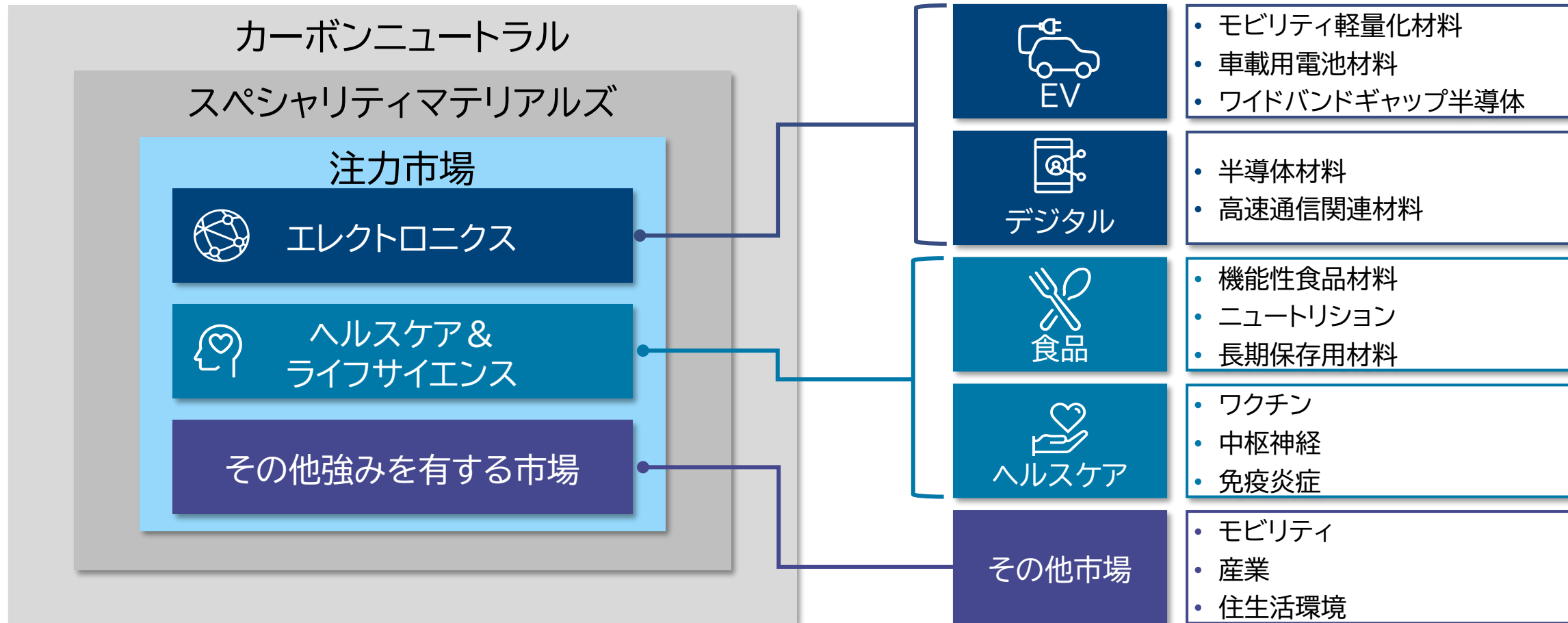
カーボン ニュートラル

CO₂排出水準

CO₂排出の削減余地

顧客／社会に対する付加価値

エレクトロニクス及びヘルスケア&ライフサイエンスを最重要戦略市場と位置付ける



戦略的なキャピタル・アロケーション

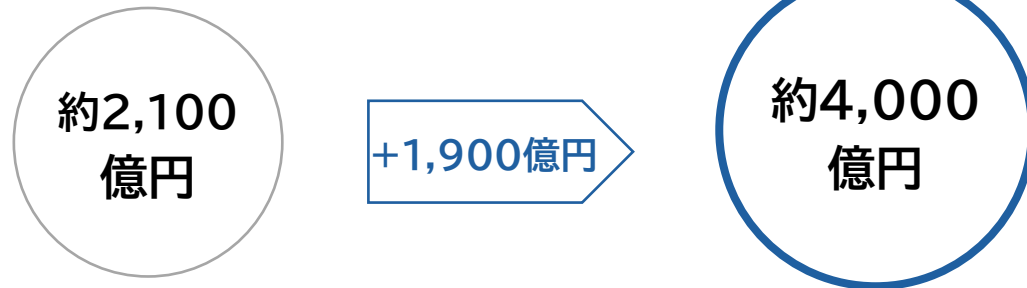
規律ある事業運営とノンコア資産・事業の売却等により得た追加資金を戦略的に再配分



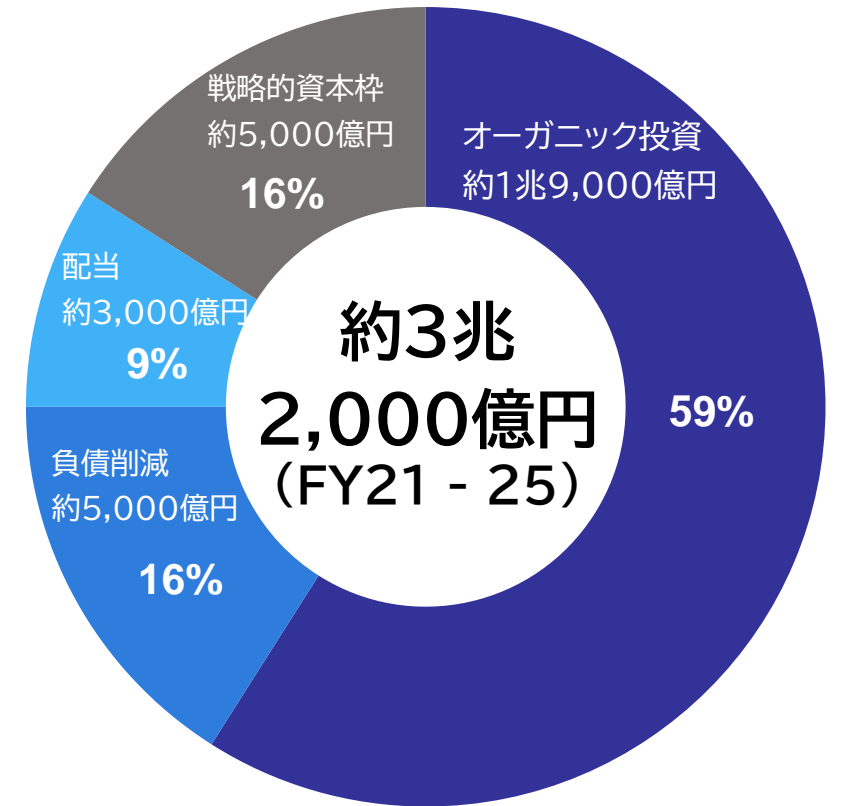
営業キャッシュ・フロー他(R&D費を除く): 約3兆2,000億円



事業売却



キャピタル・アロケーション



2050年カーボンニュートラルに向けたロードマップ

持続的な成長を達成しつつ、着実にカーボンニュートラルを実現

当社グループ GHG 排出量

16.6 MM



2019

外部要因:
電源構成の
改善

自助努力:
燃料転換
プロセス
の合理化

-29%

購入電力
排出係数ゼロ

2030



主要施策

自社発電用燃料の転換 (LNG → H₂, NH₃)

バイオマス原料の活用

製造プロセスの改善

新技術の研究開発 (人工光合成、CCUS等)

再生可能資源への投資を通じたオフセット

0 MM
tons
2050

IR Day 2022 機能商品戦略: 利益率成長の加速: 高成長が期待されるエンドマーケットにおいて独自の強みを組み合わせて事業展開



EV/モビリティ

- 電気モビリティ
- 軽量化
- 外観



デジタル

- スマートホームとアプリケーション
- パフォーマンス
- 小型化



食品

- 栄養と健康
- 耐久性
- 加工性



メディカル

- 耐久性と長寿命
- オーダーメイドのインプラント
- 健康への影響



建設・ インフラ

- エネルギー効率
- モジュール工法
- 断熱



消費財

- パーソナライゼーション
- サステナビリティ
- 再生可能な資源



産業

- スマート素材
- 水処理
- エネルギー効率

主なトレンド



MCGの 技術・製品



- バッテリー材料
- 複合材料
- 機能性高分子化合物

- 半導体材料、装置および部品
- 半導体洗浄サービス
- ディスプレイフィルム材料

- 乳化剤
- ビタミン剤
- ガスバリア機能
- プロバイオティクス

- インプラント可能なポリマー
- コンタクトレンズ用シリコーンハイドロゲル
- 歯科用モールドコンパウンド

- ファサードデザイン素材
- 接着剤およびコーティング剤の添加剤
- 建築資材

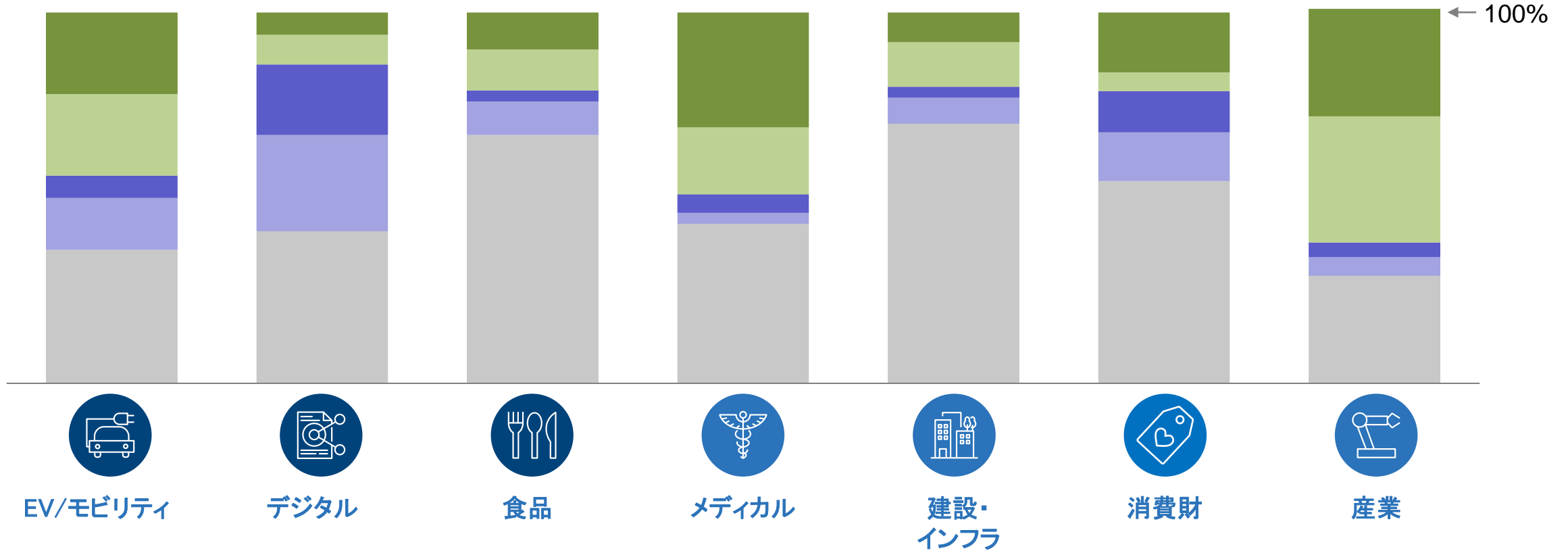
- 炭素繊維複合材
- 水溶性ポリマー
- 高性能浄水装置

- 工業用加工フィルム
- 機能性分離膜
- エンジニアリングプラスチック部品

IR Day 2022 機能商品戦略: 利益率成長の加速: 既存製品を海外の高成長市場へ投入

市場別・地域別売上 (%)

■ 米州 ■ EMEA ■ APAC・その他 ■ 中国 ■ 日本



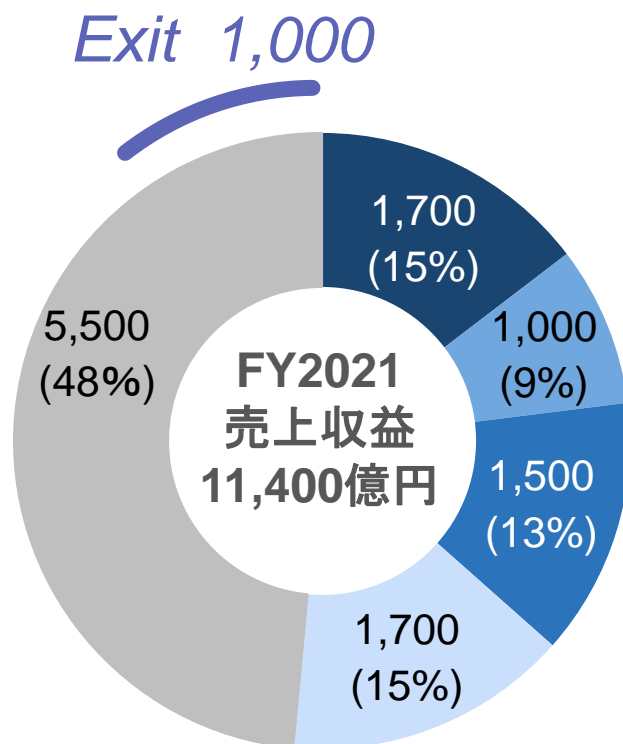
IR Day 2022 機能商品戦略:機能商品のポートフォリオの変化

FY2021実績

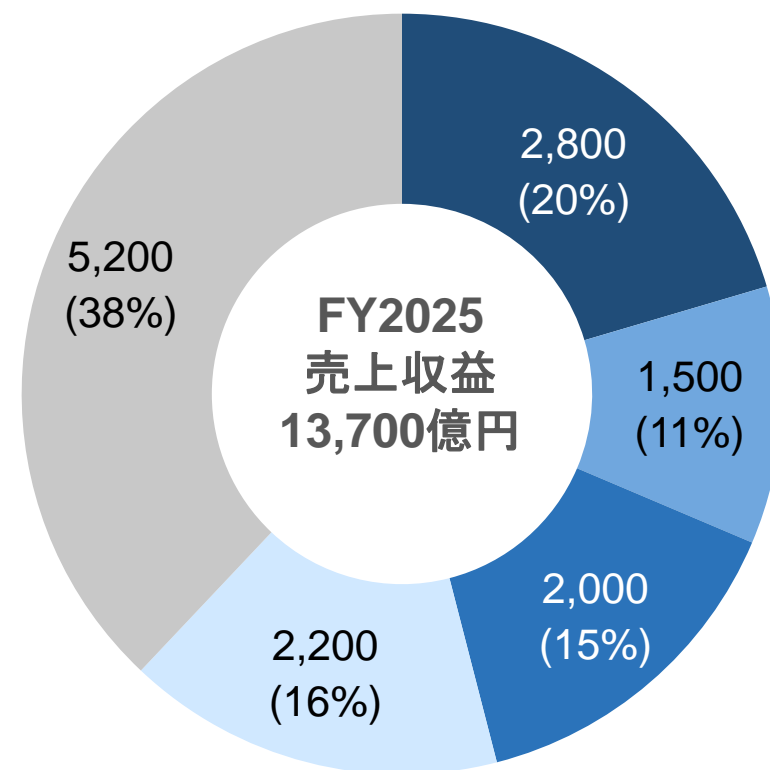
FY2025目標

最重要戦略市場

- : EV/モビリティ
- : デジタル | 半導体
- : デジタル | エレクトロニクス
- : 食品
- : 産業財, メディカル
消費財, 建設, 等
- : 撤退候補



EBITDA
>11%



EBITDA
>16%

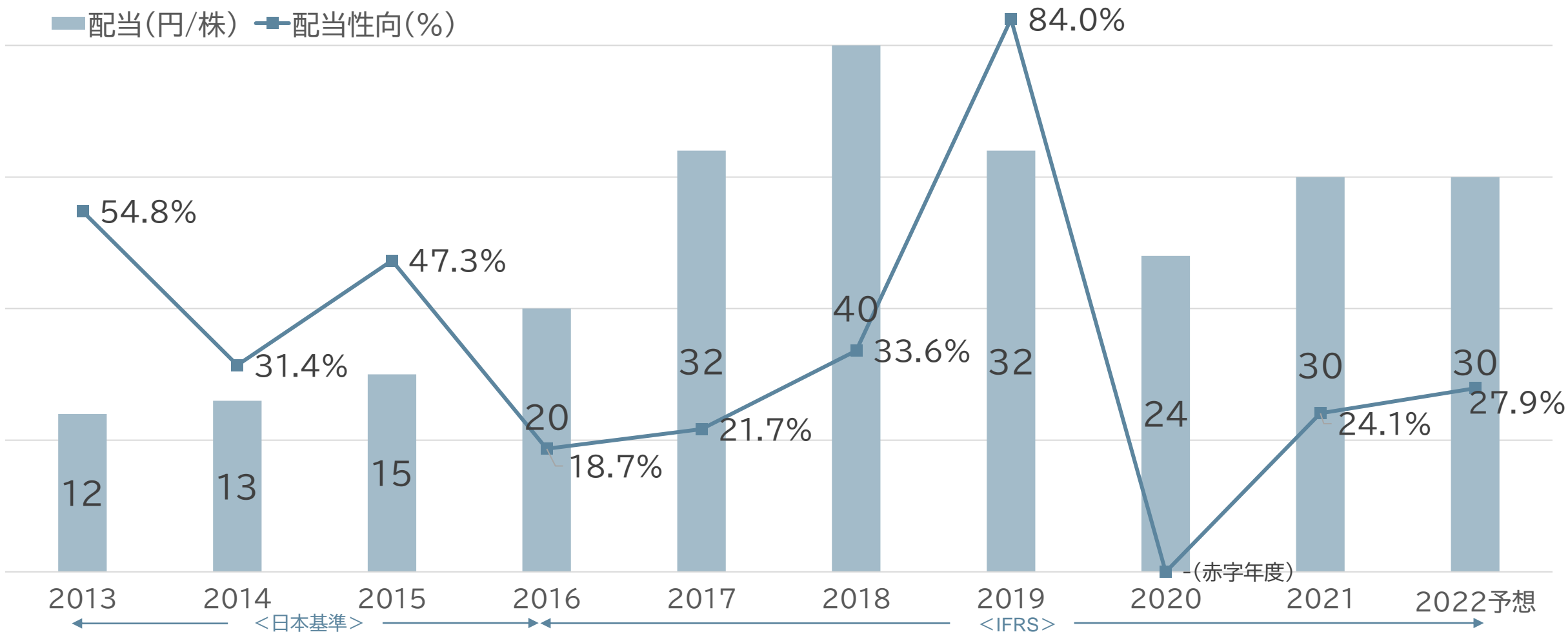
本日の内容

1. 三菱ケミカルグループについて
2. 新経営方針
3. **株主還元**

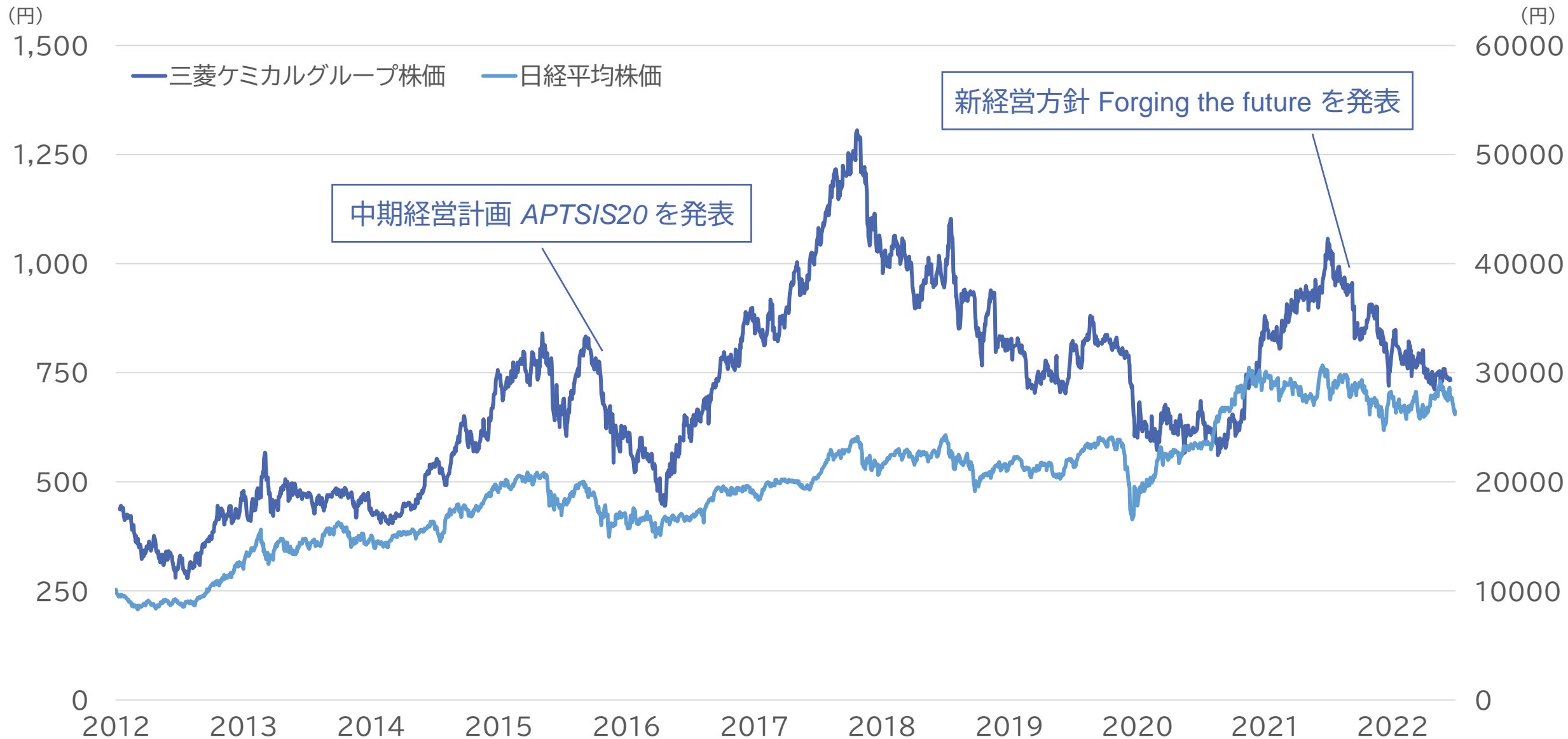
株主還元方針

企業価値の向上を通じ、株主価値の向上を図る
中期的な利益水準の30%を連結配当性向の目安とし、安定的に配当を実施
今後の配当方針は拡充の方向で見直しを検討

■ 配当(円/株) ■ 配当性向(%)



株価推移



持続的成長をめざして

新経営方針における戦略を確実に実行し、企業価値・株主価値の向上を図ってまいります。



ご清聴ありがとうございました

Dow Jones Sustainability Indices

・5年連続World members

Member of

Dow Jones Sustainability Indices

Powered by the S&P Global CSA

S&P Global Sustainability Award Bronze Class
Sustainability Award
Bronze Class 2021

S&P Global

KAITEKIレポート(統合報告書)2021への評価

- ・日経統合報告書アワード 2021 準グランプリ受賞
- ・WICIジャパン統合レポート・アワード2020 優良企業賞(シルバー・アワード)受賞

FTSE Blossom Japan Index



・GPIFが採用する4つのESG指数全てにおいて構成銘柄に選定

S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数



FTSE4Good Index

・構成銘柄に10年以上連続して選定



CDP

・「CDPウォーターセキュリティ2021」の最高評価であるAリストに選定



・Climate Change
スコア B



・Water

MSCIジャパンESG セレクト・リーダーズ指数※

2021 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数



MSCI 日本株女性活躍指数※

2021 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WEN)



日経スマートワーク経営調査

・最上位「★★★★★」
(偏差値70以上)にランクイン

NIKKEI
Smart Work

★★★★★ 2021 Best 22

日経SDGs経営調査

・★★★★★
(偏差値60以上65未満) を取得

NIKKEI
SDGs

経営調査 2020 ★★★★★

* 三菱ケミカルグループのMSCI指数への組み入れ、およびMSCIのロゴ、トレードマーク、サービスマーク、指数名称の使用は、MSCIやその関係会社による三菱ケミカルグループの後援、推薦あるいはプロモーションではありません。MSCI指数はMSCIの独占的財産であり、MSCIおよびその指数の名称とロゴは、MSCIやその関係会社のトレードマークもしくはサービスマークです。

イニシアチブや共同研究への積極的参画を通じ、サステナビリティの向上をめざす

新たな企業価値算出手法の開発をめざすイニシアチブ

「Value Balancing Alliance(VBA)」に**日本企業初**の参画

・LCA*の考え方を展開し、企業の社会的影響の金額換算手法を開発

* LCA: Life Cycle Assessment



環境インパクトの低減をめざすイニシアチブ

AEPW



Executive
Committee **メンバー**

エレンマッカーサー財団主催
サーキュラー・エコノミー100



日本の化学企業として初参加

JaIME



発起人

CLOMA



技術部会長:
当社代表執行役専務

一般社団法人
カーボンリサイクルファンド

- WEF* 第4次産業革命日本センターへの参画(2018年7月) *World Economic Forum
- 海洋プラスチック問題対応協議会への発起人参画(2018年9月)
- TCFD**提言への支持表明(2018年10月) **Task Force on Climate-related Financial Disclosures
- 経産省クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンスへの参加表明(2018年11月)
- 国際的なアライアンス(AEPW***、エレン・マッカーサー財団 CE100)への参加表明(2019年1月)
- Value Balancing Allianceの参画(2019年12月) ***Alliance to End Plastic Waste

※ 三菱ケミカルグループのMSCI指数への組み入れ、およびMSCIのロゴ、トレードマーク、サービスマーク、指数名称の使用は、MSCIやその関係会社による三菱ケミカルグループの後援、推薦あるいはプロモーションではありません。MSCI指数はMSCIの独占的財産であり、MSCIおよびその指数の名称とロゴは、MSCIやその関係会社のトレードマークもしくはサービスマークです。

三菱ケミカルグループホームページ:<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp> の「IR・投資家情報」サイトでは、適時開示情報や決算説明資料を含む決算情報等の情報を掲載しております。

個人投資家の皆様へ

三菱ケミカルグループ社をより深くご理解いただけるよう、当社グループの概要、業績、今後の戦略を中心に紹介してまいります。

代表執行役社長 ジョンマーク・ギルソン



本説明会および本資料における見通しは、現時点で入手可能な情報により当社が判断したものです。実際の業績は様々なリスク要因や不確実な要素により、業績予想と大きく異なる可能性があります。

当社グループは各種機能商品、MMA、石化製品、炭素製品、産業ガス、医薬品等、非常に多岐に亘る事業を行っており、その業績は国内外の需要、為替、ナフサ・原油等の原燃料価格や調達数量、製品市況の動向、技術革新のスピード、薬価改定、製造物責任、訴訟、法規制等によって影響を受ける可能性があります。但し、業績に影響を及ぼす要素はこれらに限定されるものではありません。

なお、医薬品(開発品を含む)に関する情報が含まれていますが、それらは宣伝・広告や医学的なアドバイスを目的とするものではありません。